令和3年度(2021年度) 学力向上プラン

伊丹市立 笹 原 中学校

市教委提出 10月22日 提出〆切り

令和3年度　全国学力・学習状況調査結果

各教科平均正答率

	自校	伊丹市	全国
国語	64	65	64.6
数学	58	60	57.2

学習状況調査　＊肯定的な回答の割合

（質問番号）質問内容　＊一部文言省略	自校	伊丹市	全国
(1)朝食を毎日食べている	95.4	92.5	92.8
(6)自分には、よいところがあると思う	76.9	78.0	76.2
(17)家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	67.7	57.9	63.5
(29)普段、1日当たりどれくらいの時間、ICT機器を、勉強のために使っていますか	59.9	43.3	42.2
(32)授業で、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う	58.4	55.3	62.0
(33)授業では、課題の解決に向けて、自分から取り組んでいたと思う	84.6	76.8	81.0
(43)国語の勉強は好きだ	56.9	57.4	60.8
(52)数学の勉強は好きだ	64.6	60.4	59.1
(68)解答時間は十分でしたか（国語）	64.6	71.9	75.3
(69)解答時間は十分でしたか（数学）	76.2	80.3	80.5

令和2年度成果と課題（R2学力向上プランから）

【 成 果 】
今年度、全国学力・学習状況調査の自校採点では、昨年度の中3生と比較して、国語が7ポイント上回ったが、数学は9ポイント下回った。しかし、9月に実施した市内統一の実力テストでは、市内平均と比較して、国語、数学ともに、やや下回る程度であった。現中3生に関しては、入学時それほど高い学力を有してはいなかったが、授業で、毎時間のねらいを明確にし、キャリア教育の視点をふまえ、社会とのつながりを意識した課題設定や、興味深い内容を取り入れるなどの工夫をすることで、かなりの生徒の学力が向上してきた。特に、中間層の学力が向上している。また、ICT機器の日常的な利活用や、指導形態としてのペア学習・グループ学習を活用した教え合い学習の定着（「笹トレの効果」）も、学力向上への効果をもたらしている。昨年度の学校評価において、「授業がわかりやすい」と感じている生徒が87.4%、「授業の最後に学習内容を振り返る活動が行われている」ととらえている生徒が88.2%、「笹トレで教え合いをすることは学力向上に効果がある」ととらえている生徒が、80.4%であった。また、今年度の学習状況調査の「授業では、課題解決に向けて自分から取り組んでいたと思う」生徒が、73%で、昨年度より13ポイント上回った。
【 課 題 】
今年度は、コロナの影響で、上半期十分な取組、研究ができていないが、来年度の「新学習指導要領」完全実施にあたり、授業の質を上げていく必要がある。1学期末の生徒からの授業評価アンケートでは、「何を学んだかよくわかる授業であった」と十分満足してとらえている生徒が、62%、「授業の中で学習した内容について振り返り活動が行われていた」に対して十分行われていたととらえている生徒が、52%であり、かなり厳しい評価である。下半期は、一つ一つの知識がつながり、「わかった」「おもしろい」と思える授業つくり、「資質・能力の育成」のための「主体的・対話的で深い」学びを目指して研究を進めていく。

R2学力向上プランの取組による令和3年度調査の成果と課題

【 成 果 】
全国学力・学習状況調査の結果は、国語、数学tともに全国平均・市内平均とほぼ同程度である。現3年生入学時の学力状況を鑑みると、そのレベルは維持していると言える。国語では、「文脈に即して漢字を読む」ことについて正答率が90%を超え、「話すこと・聞くこと」「書くこと」に関する設問での正答率が高かった。授業でICT機器を利活用する場面が増え、自分の考えや意見を交流する機会が増えたことが結果につながっている。数学では、与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取るなどの問題での正答率が83%～96%と高い。ICT機器の利活用に係る設問では、上記(29)をはじめ、(26)(27)(28)に対しての肯定的回答が、全国・兵庫県・伊丹市どの平均と比べても圧倒的に高い。昨年度1人1台のタブレットが導入され、教員が日常の授業で積極的に利活用し、家庭への持ち帰りもほぼ毎日実施してきたことの成果と言える。また、(35)「1，2年生での授業は自分に合った教え方・教材・学習時間になっていたか」に対しての肯定的回答が84.6%と、かなり高い。さらに、国語・数学とも「授業内容はよくわかる」への回答が、全国・兵庫県平均より10ポイントほど高い。研究推進のテーマ「プロジェクト型学習の創造」をさらに充実・深化させたい。
【 課 題 】
上記(68)(69)のように、国語・数学ともに、解答時間が間に合っていない。設問を「読みとる力・書く力」が弱い。興味関心をひきつける授業、社会とのつながりをもつ授業、ていねいな指導の授業の一方で、一定の時間内により多くの「情報を処理する力・加工する力」の育成が必要である。国語では、読書や話合いの機会を増やし、ものの見方や考え方を広げ、自分の考えを形成・発信する力を育てたい。数学では、物事の事象に対して結果だけを見るのではなく、数学的見方や考え方を通して、根拠をもとに考察したり、一般化して表現する力を育てたい。今後も、一つ一つの知識がつながり、「わかった」「おもしろい」と思える授業つくり、「資質・能力の育成」のための「主体的・対話的で深い」学びを目指して研究を進めていく。

令和2年度改善策（R2学力向上プランから）

【 令和2年度 学力向上の具体策 】
①学力調査・実力テスト・授業評価アンケートの分析にもとづく学習指導の充実、社会とのつながりや必要感のある課題設定・本質的な問い・しかけなどの場づくりを意識した授業改善。本時のねらいと振り返りの質をあげる。
②チーム学習や教え合い学習など指導形態のさらなる工夫・充実（意図的なペア・グループ編成と目的意識の明確な対話学習）、「笹トレ」の手法を各教科に落とし込む
③考えたくなる課題設定・発問の工夫・しかけ（授業における意図的な場づくり）
④ICT機器の利活用推進と設備の充実（タブレットのフル活用、全教科を通した振り返りのフォーマットつくり）
⑤授業のユニバーサルデザイン化推進の継続（視角・聴覚・体感）
⑥2・3年生数学での習熟度別学習の実施
⑦全学年英語での同室内複数指導（週2時間）の実施
⑧数学異学年教え合い学習「笹トレ」（水曜6校時30分）による学力定着
⑨土曜学習の充実（9月から月2回程度、全13回実施）
⑩「サクセスシート」（授業の振り返りシート）の一層の充実と主体的家庭学習への連動（「みんなの学習くらぶ」の活用）
⑪英検・漢検・数検等の検定取得の推奨
⑫学校図書館の活用と読書量の増加
⑬笹手帳や笹中校区3校合同生活点検週間チェックシートの活用による生活習慣（朝食・学習時間等）の改善
⑭コミュニティ・スクールとして、地域・家庭との連携強化、ならびに、マンネリからの発展

令和3年度　改善策

【 令和3年度 学力向上の具体策 】
①学力調査・実力テスト・授業評価アンケートの分析にもとづく学習指導の充実、社会とのつながりや必要感のある課題設定・本質的な問い・しかけなどの場づくりを意識した授業改善。本時のねらいと振り返りの質をあげる。「研究」と「研修」の違いを明確にする。
②チーム学習や教え合い学習など指導形態のさらなる工夫・充実（意図的なペア・グループ編成と目的意識の明確な対話学習）、「笹トレ」の手法を各教科に落とし込む
③考えたくなる課題設定・発問の工夫・しかけ（授業における意図的な場づくり）
④ICT機器の利活用推進と設備の充実（タブレットの日常的活用、各種アプリの活用）
⑤授業のユニバーサルデザイン化推進の継続（視角・聴覚・体感）
⑥3年生数学での習熟度別学習の実施
⑦全学年英語での同室内複数指導（週1時間）の実施
⑧数学異学年教え合い学習「笹トレ」（水曜6校時30分）による学力定着・自己有用感の向上
⑨土曜学習の充実（10月から月2回程度、全11回実施）
⑩各教科各単元に応じた「サクセスシート」（授業の振り返りシート）の一層の充実と主体的家庭学習への連動（「みんなの学習くらぶ」の活用）
⑪英検・漢検・数検等の検定取得の推奨
⑫学校図書館の活用と読書量の増加（SSSの活用による開館日の確保）
⑬笹中校区3校合同生活点検週間チェックシートの活用による生活習慣（朝食・学習時間等）の改善
⑭コミュニティ・スクールとして、地域・家庭との連携強化、ならびに、マンネリからの進化・発展

各教科の分析に基づいた具体的取組

	1年	2年	3年
国語	・探究心を持たせるために、今学習している内容が、日常生活にどのように活かされるのかを実感させる。 ・読む・書く・聞く・話す能力を伸ばすためには、語彙能力を高めることであり。ICTを取り入れながら意味しらべを単元ごとに行う。 ・朗読やスピーチなど違いを意識させ工夫をさせることで、自信を持って発表や発言をさせ、聞く力も身につけたい。 ・小論文や説明文に慣れさせながら、文章を書く基本的なことを学ばせる。	・生徒のレディネスや意欲・関心を大切にし、日常生活と国語学習とのつながりを意識させながら、正しい国語力の育成につなげる。 ・読む・書く・聞く・話すといった活動を積極的に取り入れ、ICTを適宜活用して国語力向上に努める。 ・思考する場面を設け思考する時間を確保し、思考したことを作文やスピーチ、話し合いなどで表現させるようにする。 ・サクセスシートを使用して、振り返り活動を充実させる。	・日常の生活と国語のつながりを意識させる授業展開を行う。 ・話す・聞く能力のなかでも、とりわけ聞く活動の方が多くなってしまう傾向がある。生徒の話す機会を増やす活動を取り入れることや、ICTを効果的に活用する等して、話す能力と聞く能力を相関的に高める授業改善に努める。 ・理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりすることで、自分の考えを広げる活動を行う。
数学	・ふり返りシートを用いて、知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力が身につくような課題を取り入れる。考え方や、説明を記述させ、評価することで数学への意欲、関心を高める。 ・めあての工夫が必要である。単なる行動目標のようなめあてばかりではなく、生徒が思考したくなるようなめあての設定をしていく。 ・課題設定を見直し、基礎的な内容の定着と思考を深める問いを織り交ぜていく授業を展開する。 ・単元テストに関しては、主に知識・技能の振り返りができるように活用する。	・「みんなの学習クラブ」を用いて、自ら復習する課題を設定して取り組むことができるような家庭学習の仕組みをつくる。 ・単元テストに関しては、主に知識・技能の振り返りができるように活用する。 ・めあてに関しては、生徒がわくわくするような仕掛けが必要であり、ちょっとした疑問や数学についての思考を促すような問いかけを大切にして授業を展開していく。 ・習得してきた数学の知識や技能、考え方を用いて、他教科との関わりも持たせながら、生活や社会に生かせるような授業を単元末に設定していく。	・数学を用いた課題解決を通して、数学の有用性を感じられるような教材を検討する。 ・デジタル教科書やICT機器を効果的に使用し、特に、グラフや図形分野で視覚的に情報を精査できるよう心がける。 ・グラフや図形分野で、ICT機器を効果的に使用する。 ・基礎学力の向上を目指し、単元テストを活用する。定着していない内容については補習を行ったり、再テストを実施したりすることで、生徒が自ら演習を繰り返し、家庭学習を行うようにしていく。
理科	・子どもたちが普段の生活の中で経験していることを、科学的な視点で見ることができるように、実験や観察を行っていく。 ・身のまわりの事を題材にして、日常生活の疑問を解き明かせるような手立てをする。 ・実験、観察を通して、実際に体験させる。 ・知識の定着や、定着具合を把握するための小テスト等を実施する。 ・タブレットで疑問に思ったことを調べさせるなど、自らが興味をもったことを大切にし、授業の中でも積極的に触れるようにする。 ・めあてを明確にし、その時間で身につける力を理解させた上で、授業を行っていく。	・めあてを明確にし、その時間で身につける力を理解させた上で授業を行う。 ・知識の定着や、定着具合を把握するための小テスト等の実施する。 ・実験、観察をする際には、結果を記録するだけでなく、なぜそのような結果になったのか、個人やグループでしっかりと考察させる。 ・実験の結果に対する、生徒の考察を共有し、理論的にまとめる。 ・実験、観察を通して、実際に体験させる。	・授業内で行う課題などについて、各自がしっかりと考える時間を確保し、考えた内容を記録するようにし、誰もが書き取れるノートをつくらせる。 ・めあてを明確にし、毎時間の最後に数分、振り返りを書く時間をもうけ、サクセスシートが書けるようにしていく。 ・自分自身の理解をより深めるために、教え合う場を積極的につくっていく。 ・タブレットで疑問に思ったことを調べさせるなど、自らが興味をもったことを発展的に積極的に触れるようにする。 ・グループ内、クラス内での対話により、一人一人の学ぶ意欲を高め、積極的に授業に参加できるようにする。
社会	・スクールタクトで、授業のめあてに合った振り返りを課題としてだし、「今日の重要語句」や、「疑問点」を書くようにしている。 ・単元ごとに、単元での疑問点を調べ学習として取り組み、自身の疑問は、次の単元に行くまでに解決するようにする。 ・また、単元テストをこまめに実施し知識の定着を図る。 ・単元ごとに、思考ツール等を使い、授業の復習を行う。 ・学習した内容を、振り返り、整理することで知識の定着を狙う。	・サクセスシートを活用し 「今日の重要語句」「今日の授業を受けての疑問や質問」の項目を設定し、考える活動を重視しているが、授業時間内に十分な時間がとれず、生徒たちも2～3時間分まとめて振り返りを行っている状況であり、授業時間内に振り返りの時間が確保できるよう心がけていく。 ・単元テストをこまめに実施し知識の定着を図る。定期テスト前に実施することで、意欲の向上につなげる工夫を行っている。	・ノート右側に板書の内容を書き、復習用の問題演習などのプリントを左側に添付する。自宅で再度、右側の板書を見ながら今日の学習内容をもう一度確認し、左側のプリントを使い復習が行える。学習内容の定着と家庭学習の定着を図る。 ・毎日サクセスノートを作成し、授業内容の確認をする。授業で疑問に感じたことを調べ、課題解決をするようにしている。 ・授業後、スクールタクトに授業ノートを貼り付け、授業の中でのキーワード3つ書き込んだ上、その日の22時までに提出する。共通閲覧にしているので、当日、欠席した場合、スクールタクト内の、友人のノートを見て授業の内容を把握する事ができる。
英語	・英語席を工夫し、生徒同士の教え合い活動を円滑に進めさせる。 ・学習の定着を図るために、前時学習した内容を復習するためのペア活動を導入時に取り入れる。 ・場面や状況設定にこだわり、いつどのように学習する語彙や表現を活用するのか具体的に示す。 ・評価の基準を明確にし、生徒にしっかりと示していく。 ・授業の中で中間発表をし、全体で改善点、良かった点を共有する。	・1学期の授業アンケートの結果、振り返りの取り組みを工夫する必要があることが明らかになった。2学期より、新たに学習した文法表現に関する振り返りと教科書本文内容に関する振り返りを実施している。それぞれ、場面設定をした上での自己表現や、本文についての要約（穴埋め形式）という形式で振り返りを行っている。 ・英語座席を工夫し、生徒同士が教え合ったり、考えを共有したりできるようにしている。 ・生徒の取り組みの中で特に顕著なものを随時取り上げ、それを1つのモデルとして提示し、全体の目指すレベルの底上げを図っている。	・振り返りの方法を工夫し、次の授業へつなげる。 ・学習の定着を図るために、Warm－upを工夫し、その内容が本時のめあてにつながるよう、工夫する。 ・場面や状況設定を具体的に示し、どのような場面で使うのか分かりやすくする。 ・スモールステップになるよう、単元テストの問題を工夫して作成する。